

第8回例会 長野市立博物館「国絵図の世界」展の見学と研究会

猛暑が続いておりますが、会員の皆様にはますますご清祥のことと存じます。第8回の例会は、本会員の三好唯義先生（国絵図の世界展で講演8月8日14:00～長野市博）のご紹介で、長野市立博物館の全面的なご協力を賜り、展示担当の降幡浩樹先生に解説を受けた後に信濃国絵図に関する研究会を催します。今回は、現存する幕撰の正保、元禄、天保の信濃国絵図を一堂に見学でき、各図を比較できる絶好の機会です。また、官撰国絵図の影響で成立した刊行国絵図や地誌等も展示されています。さらに、前日は松代温泉で研究会も行ないました。会員の皆様には、ふるってご参加下さいますようお願い申し上げます。

日程・内容

- 8月29日(土) 16:30～17:30 研究会「国絵図の国境について」(磯永和貴)
8月30日(日) 9:00～11:30 長野市博「国絵図の世界」展の解説
12:30～14:00 降旗先生との質疑応答に続き研究会

展示構成及び展示品

- I 幕府撰信濃国絵図・・・幕撰信濃国絵図を中心に展示
1 正保信濃国郷村帳/2 正保信濃国絵図/3 元禄信濃国郷村帳/4 元禄信濃国絵図/5 天保信濃国郷帳/6 天保信濃国絵図
II 国絵図の作成過程・・・図の作成過程を文書や下絵図を展示
7 信濃国続拾ヶ国境絵図上ニテ引合吟味覚/8 信濃国郡村名性名書/9 組合役人申合之覚書写/10 信濃国切絵図/11 信濃国寺社領所付之写/12 顔料/13 御絵図義窺之覚書/14 絵図紙(越前間似合紙、美濃紙)/15 信濃国切絵図/16 国図枢要/17 国絵図取調二付諸向より来状/18 規矩元方/19 信濃国諏訪郡切絵図/20 地方測量図解/21 信濃国村名並変地取調帳3冊
III 刊行国絵図と地誌・・・幕府幕国絵図との比較、大衆への普及という視点から刊行国絵図や地誌類などを展示
22 信濃国絵図/23 新府統記/24 信濃国絵図/25 信陽雑誌/26 細見信濃国大絵図/27 千曲川之真砂/28 信濃国絵図/29 信濃国絵図/30 信濃地名考/31 日本海山潮陸図
IV 絵図から測量図へ・・・伊能忠敬の全国測量以降、松代藩で東福寺泰作の測量地図が作られた。その地図や道具を展示
沿海地図中図/測量道具/伊能忠敬測量日記/宮城流許状/松代領実測地図/規矩法図解/松代領実測製図用器/測量に関する和書/松代府内測量図記

集合場所：8月29日15:50 JR篠ノ井駅前（駅前に宿のバスが迎えに来ます）

※直接宿にお出でになられる方は、その旨を申し込み葉書に記入して下さい。

①東京駅長野新幹線13:52（あさま517号）→上田駅15:13しなの鉄道乗り換え
5:23→篠ノ井駅15:47

②名古屋駅発13:00（しなの19号）→篠ノ井駅15:34

宿泊：「松代荘」宿泊費13,000円（宴会や入館料などの現地での一切の費用を含む）

図録の販売：「国絵図の世界」の展示図録を販売します。同封の葉書でお申し込み下さい。

図録が到着次第、同封の郵便振込で図録代と郵送代をお支払下さい。

A4版 40ページ 800円です。

申し込み方法：同封の葉書に必要事項を記入の上、8月5日必着でお申し込み下さい。

問い合わせ：世話人の磯永和貴（宇治市歴史資料館）までお願いします。

宇治市歴史資料館 宇治市折居台1-1 TEL0774-20-1311 fax0774-20-2383

自宅 京都府城陽市市辺20-1 TEL0774-56-2995

5月のとある日曜日に大学の先輩である礪永さんに誘われ、元禄国絵図の近江国と伊賀国境にあるという国境標石を探しに滋賀県甲賀郡信楽町と三重県阿山郡阿山町の県境に出かけた。なぜ私が誘われたかという点、自宅が甲賀郡で目的地に近かったせいである。発掘調査を仕事にする私にとって歴史地理学は素人であるが、大学の恩師である伊達宗泰先生の影響で関心だけにはあった。また、踏査は考古学の分布調査と同じで破壊をともしない純粋に楽しい調査なので、「何が見つかるかな」とわくわくしながら、同行することになった。

その日は朝から小雨混じりのあいにくの天候だった。地図によると、阿山町榎山地区の山中に開発された住宅地の奥から県境に平行した山道が伊賀焼きで知られる丸柱地区まで続いて、それが目的のコースだ。車で送迎を妻に頼み午前10時30分頃住宅地というよりはログハウスがちらほらと建つ別荘地を出発した。思ったより広い住宅地やゴルフ場の周辺をしばらくうろちうろちしていたが、そのうちに大きな池が見えることに気づいた。地図で確認すると目的のコースとは全く違うので、しょうがなく磁石をたよりに道はずれて山中を歩くことにした。江戸期の里山は今よりもっと管理されもつと歩きやすかったらうか、ぬれた下草のためにズボンはずぶぬれだ。時計は12時を回って腹も減ってきた。持ってきたのはお茶だけで、「握り飯でも持ってくるべきだった」としきりに後悔している礪永さんの様子を見て、大学時代山岳部だった先輩が見事に迷った事を察した。折り悪く雨も落ちてくる。甲賀や伊賀の山々は複雑に入り込んだ谷が多くあり、低く特徴のない山が続くので非常に地形がわかりにくい。そんな土地柄が忍者を生んだという逸話もあるくらいだ。

私たちは、国境を探すよりも迎えに来てもらう予定地の丸柱を目指すことに作戦を変更した。道なき道を山や谷を越えてひたすら南を目指す。いつの間にか北に向いて歩いていることもあり、磁石から目が離せない。ようやく山道にでると遠くに車の音も聞こえる。助かったのだ。しばらく行くと林道があり、丸柱の集落にたどり着いた。時計は、午後2時30分を指していた。迎えの連絡をし、よろず屋に入るとあんパンがありそれで遅い昼食とした。冷蔵庫の棚にビールを発見したが、店の主人が飲むものということまで売ってくれなかったのは残念であった。

結局目的の国境は分からず、見つけたのは伊賀焼の破片と大阪営林署の標札、松茸山の境界のビニールテープぐらいであった。しかし、約4時間の踏査はそれなりにおもしろかった。身近な山でも遺跡のない奥部に入る機会はなかったし、雨のせいで谷を流れる沢の雰囲気も神秘的であった。

迎えの車が到着し、帰道で大正7年の県境の標柱を見学して調査は終了。甲賀の地酒で反省会を行なった。それから数週間してこの小文の依頼と、今度は逆方向から再チャレンジしようという礪永さんからの電話があった。
(財)栗東町文化体育振興事業団埋蔵文化財課職員

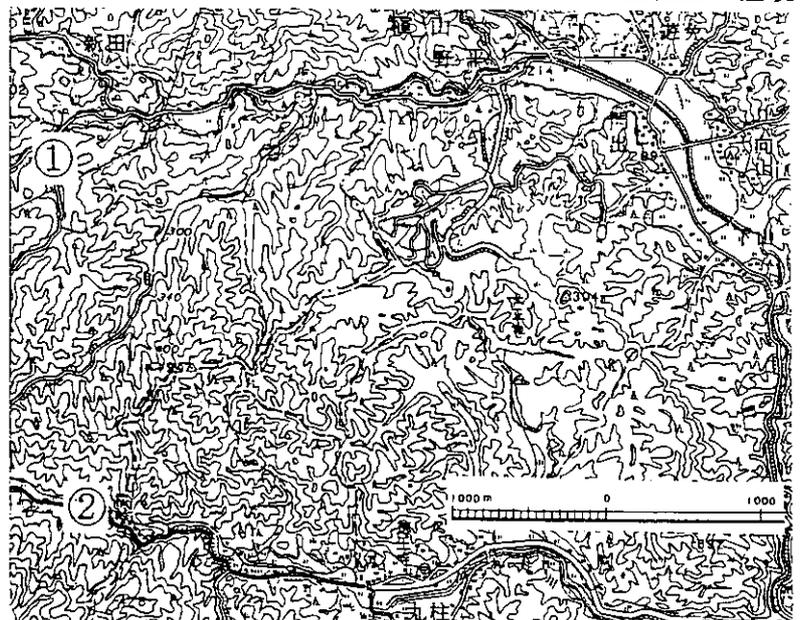
元禄伊賀国絵図(三重県立図書館蔵)には、①の地点に近江と伊賀の国境を示す「五位木境目石」があること。また、①から②の桜峠までの所々に「国境印之塚」があり、さらに桜峠には伊賀と近江の国境を示した印の塚があるとしている。

この地点で起こった三郷山争論については、川村博忠先生の「元禄年間の伊賀国絵図改訂に際する国境論地の処理について」『佐保工業高等専門学校研究報告』13号で詳しく検討されている。それを参照すると三郷山は、近江と伊賀の両国からの入会山で正保国絵図の国境確定以降も争いが絶えなかったという。絵図、元の津藩と水口藩の内談でおさまらず、伊賀国の庄屋は幕府評定所へ元禄11年7月に提訴に及んだ。評定所は、元禄12年春に個別に庄屋を尋問し、同年6月に現地へ役人を派遣して実地検分が行なわれた。この際に正保国絵図の国境線が尊重され伊賀に有利であったようである。そして、元禄13年に判決が下りて最初に記した元禄国絵図の国境とその標柱が立てられた。

今回は、こうした争論の場所を実際に踏査して地形を体験することを。あわよくば国絵図には記されたい標柱が現存しているのではという甘い期待をもって大学の先輩で、現地の近くに住んでいる佐伯君に同行してもらった。しかし、随筆の通り国境に到達するまでもなく道に迷ってしまった。現地へ検分のため訪れた幕府役人は、国境決定に随分と苦労しただろうと思った。

せっかくの貴重な体験とおもわれるので、会員ではないが佐伯君に随筆を寄せていただいた。

(礪永)

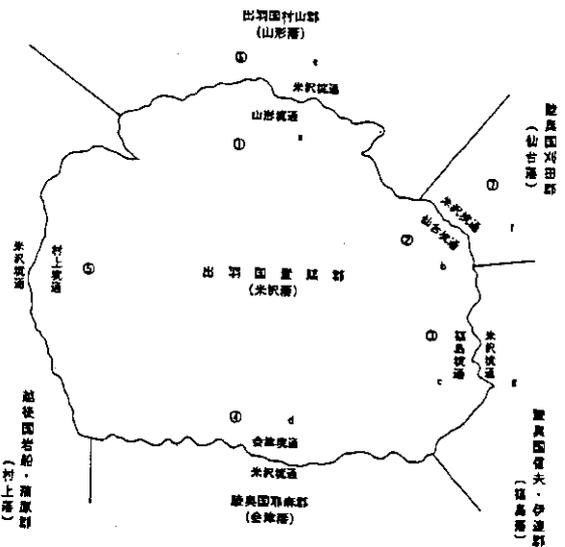


置賜郡と会形・際絵図 寛文四年（一六六四）米沢藩は三十万石（出羽国置賜郡、陸奥国信夫・伊達郡）から十五万石（幕府領屋代郷を除く置賜郡）に削封された。元禄国絵図作成事業において、出羽国は五図幅に分割され、米沢藩は置賜郡一円の絵図元となった。置賜郡は北側では出羽国村山郡（絵図元山形藩）、東側では陸奥国刈田郡（仙台藩）、同国信夫・伊達郡（福島藩）、南側では同国耶麻郡（会津藩）、西側では越後国岩船・蒲原郡（村上藩）と接している。米沢市立図書館には、米沢藩と五藩作成の会形（国境・郡境筋で切り抜いた絵図）・際絵図（切り抜きのない絵図）が表のように現存している。①～⑤は米沢藩作成の会形で、置賜郡周回の全てが残っている。置賜郡との国境・郡境は米沢藩側からは「山形境通」「仙台境通」などのように呼ばれていた。⑥は山形藩、⑦は仙台藩作成の会形である。福島・会津・村上藩作成の会形は既に失われている。⑥の存在や、⑦に「際絵図取替ノ時仙台ヨリ送ラレシ会形」とあること。この点を考慮すると、会形もまた際絵図と同様に交換すべき絵図であったのかも知れない。a～dは米沢藩作成の際絵図である。村上藩宛の際絵図を欠いているが、その絵図は⑤から推測することができる。eは山形藩、fは仙台藩、gは福島藩作成の際絵図である。会津・村上藩作成の際絵図は残っていない。際絵図の交換は元禄十二年（一六九九）十月から翌十三年四月ごろ迄であった。図は現存する米沢藩作成の①～⑤とa～d、五藩作成の⑥・⑦とe～gを示したものである。村山郡の山形藩、刈田郡の仙台藩との関係においては、対応する会形・際絵図①・aと⑥・e、②・bと⑦・fが残っている。一部で欠如はあるものの、置賜郡の周回全てについて、会形・際絵図は現存している。

会形・際絵図の役割 元禄国絵図以降、米沢藩がどのような意図で会形・際絵図を藩の「御絵図蔵」に保管していたのか。この点は未だ明らかではない。諸藩に残る会形・際絵図には、二つの役割があった。一つは国絵図の国境・郡境を確定した本来的な役割である。もう一つはそれから派生した役割である。明和六年（一七六九）『宇田郡相馬領境犬転欠崩場所見分取替絵図』（宮城県図書館蔵）は、元禄十三年（一七〇〇）際絵図の写に、藩境で発生した崖崩れの位置を記載し「末々ニ至紛為無之」の証文を書き添えて、仙台・中村藩が互いに交換した絵図である。それは後年の藩境争論を未然に防止するために作成された絵図であった。このような、会形・際絵図が果たした持続的な役割の解明は今後の研究課題である。

会 形	米 沢 藩 作 成	①	米沢領端絵図 米沢領端絵図	但山形境通会形扣(1795) 但山形境通会形 (1802)
		②	米沢領端絵図 米沢領端絵図	但仙台境通会形扣(1794) 但仙台境通会形 (1803)
		③	米沢領端絵図 米沢領端絵図	但福島境通会形扣(1797) 但福島境通会形 (1801)
		④	米沢領端絵図 米沢領端絵図	但会津境通会形扣(1796) 但会津境通会形 (1800)
		⑤	米沢領端絵図	但村上境通会形扣(1798)
	他 藩 作 成	⑥	山形領端絵図	但米沢境通会形 (1804)
		⑦	仙台米沢御境目改双方際絵図取替ノ時仙台ヨリ送ラレシ会形 (1793)	
際 絵 図	米 沢 藩 作 成	a	山形 ^山 相渡際絵図御扣	(1788)
		b	仙台 ^仙 相渡際絵図御扣	(1787)
		c	福島 ^福 相渡際絵図御扣	(1790)
		d	会津 ^会 相渡際絵図御扣	(1789)
	他 藩 作 成	e	米沢領山形領会形絵図之写 (1782) 山形領米沢領境縁絵図 ^山 合形図 (1783)	
		f	仙台米沢御境目改双方際絵図取替ノ時仙台ヨリ送ラレシ際絵図 (1792)	
		g	福島ヨリ相渡サレシ際絵図 (1791)	

() 内は比較資料、斜線部、1782は「合形図」とあるが、誤記の誤り。



本の紹介

元禄15年「薩摩図・大隅図・日向図」国絵図解説

♥編集 鹿児島県教育委員会

◇出版 (有)徳田屋書店 鹿児島市東千石町4-12 TEL099-222-3264

◆価格 本代 5,775円 送料700円

♡購入方法 徳田屋書店へ電話か郵便で直接お申し込み下さい。

内閣文庫の所蔵の薩摩・大隅・日向国の元禄国絵図の解説・写真版・翻刻が載せられています。周知のように元禄国絵図の献上本は、上記三国の他、下総、常陸、丹波、琉球しか残っていません(因に山城、大和、河内、和泉、摂津、近江、播磨は後世の模写本)。写真版は折り込みで、図全体を1枚にしているために文字はよく読み取れませんが、色調などは精巧です。文字の翻刻も載せられており、かなり研究にも使えます。近々に続編も発行されるようです。山口県文書館の河村克典先生より同書の刊行のご教示頂きました。

展示案内

■ 正保山城国絵図の展示案内 ■

第1回の国絵図研究会で閲覧しました宇治市歴史資料館所蔵の正保山城国絵図が下記の日程で同館で開催されます特別展「宇治名所図会」で陳列されます。また、宇治や山城国に関係した絵画、古絵図や地誌書、旅行記なども展示しますので、地理や歴史に関心ある方も楽しめると思います。ちょうど会期中に人文地理学会大会が京都で開催されます。水～土は磯永の勤務日ですのでご案内します。どうぞご来館下さい。

1 場所 宇治市歴史資料館(月曜・祝日休館)

京都府宇治市折居台1-14 TEL0774-20-1311

2 開館時間 9:00~17:00

3 入館料 大人200円

4 展示期間 1998年10月3日~11月1日まで

5 記念講演会 1998年10月18日(日)午後2時~

宗政五十緒(龍谷大学名誉教授)「名所図絵の魅力—宇治とその周辺」

編集後記

第7回米沢例会は、小野寺淳、阿部俊夫両先生の心よりのもてなしで盛会となりました。また、小野寺先生の茨城大の学生さん、吉田敏弘先生の国学院大学の院生や学生の皆様にも様々なお世話をいたたぎ感謝しております。研究会の席に山形名産のサクランボが用意されており「サービスが良いな」と思ったら、なんと地元出身の茨城大の学生さんがご自家製のものを持参いただいたもので、一同感激しました。白布温泉の露天風呂はとても快適で疲れも吹き飛び、次の日の米沢市立図書館の閲覧も充実したものとなりました。

ニュースの2号は、阿部先生と土田先生から玉稿を賜り充実したものとなりました。すでに3号も投稿の予定があり、編集者としてはうれしいことです。しかし、本や展示の情報はなかなか集まりません。国絵図に限らず絵図に関係するものであれば、どしどし下記の磯永まで情報をお寄せください。

研究会の会員名簿を作成しました。48名もの方に入会いただいております。国絵図に関する関心の高さがうかがえます。これから研究会が益々発展するように、会員相互の連絡に活用していただければ幸いです。なお、訂正が生じたならばご面倒でも事務局までお知らせ下さい。

次回の例会は、長野市立博物館「信濃国絵図展」です。松代温泉は武田信玄の隠湯だそうです。国絵図の研究と共に、新たな学期が始まる前の息抜きに、少し涼しくなった信州はどうでしょうか。是非ともご参加下さい。

《国絵図ニュース編集担当》 磯永 和貴

〒611-0023 京都府宇治市折居台1-14 宇治市歴史資料館内 TEL 0774-20-1311